

2023

7 JUL.

TACHIKAWA HOSPITAL



NEWS NO. 75

2▶ 循環器内科部長就任
のご挨拶

3▶ 腎臓内科部長就任のご
挨拶

4▶ 麻酔科部長就任のご挨拶

5▶ 整形外科紹介

7▶ 皮膚科紹介

9▶ 形成外科紹介

11▶ センターからのお知らせ

立川病院 だより



循環器内科部長就任のご挨拶

2023年5月1日より循環器内科部長を拝命いたしました影山智己と申します。

私は2001年浜松医科大学を卒業し慶應義塾大学で内科ローテーション研修後、済生会宇都宮病院、日野市立病院と内科専修医として従事しました。その後慶應義塾大学での循環器専門研修、また再生医学の基礎研究のあと、さいたま市立病院を経て2014年より立川病院での勤務を開始しました。

普段より循環器内科医として冠動脈形成術（PCI）、不整脈、心不全の診療を行っています。またBLS/ICLS/JMECC救急講習会、医療安全講習会、病棟勉強会、カンファレンスなどを通じて研修医や看護職、職員スタッフへのスキルアップを支援してきました。

当院・当科が引き続き、またこれからも地域で選んでいただき、頼りになる存在であり続けるため、努力して責務を果たしたいと思っています。

立川病院の患者さんの特徴を鑑みて、当院の理念であります「質の高い、思いやりのある医療の実践」のため以下の方略を立て、継続して質を高めて患者さんに貢献していきます。

1. 東京CCUネットワークへ引き続き参画し、急性心筋梗塞、急性心不全など急性期疾患診療体制（医師・スタッフ）を維持、拡充します。
2. 様々な併存疾患をもつ高齢患者さんに対して臓器別にとどまらない総合的な診療対応を行います。
3. 総合病院での循環器の役割として、また東京都がん診療連携拠点病院として、周術期の心血管疾患管理支援やがん治療関連心機能障害（CTRCD）診療を行い、安心して手術やがん治療が受けられる体制を整えます。
4. 患者さん中心の医療の実践・介入をハートチームで行っています。医師、看護師、理学・作業療法士、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなどからなるメンバーがそれぞれの専門性を活かして一人の患者さんを「診て見て観て」、チームで包括的に対応します。
5. 患者さんを支え、寄り添う地域のチーム医療の担い手として、地域で連携して患者さんを診る医療連携体制を整えます。今後高齢化に伴い心不全患者が急増する「心不全パンデミック」が想定されており、かかりつけ医の先生、ケアマネジャー、往診医、訪問看護師、また回復期病院、地域包括ケア病棟、介護施設などと協力して地域で患者さんを支えるための連携強化が必要と考えています。

良質な医療が提供できるように、誠心誠意努めて参りたいと思います。また地域連携のご相談を申し上げることもあると思います。今後ともご支援、ご指導賜りますようお願い申し上げます。



循環器内科部長
影山 智己

腎臓内科 透析センター部長就任のご挨拶



腎臓内科 透析センター
部長
二木 功治

平素より地域医療、とりわけ腎臓疾患ならびに透析療法における連携に対し多大なるご支援をいただきましてありがとうございます。

令和5年6月1日付けで、腎臓内科部長ならびに透析センター部長を拝命いたしました、二木功治です。私は平成19年に慶應義塾大学医学部を卒業後、初期臨床研修ならびに内科専修医研修を経て慶應義塾大学医学部腎臓内分泌代謝学教室に入局いたしました。平成28年に立川病院に赴任後、前任の五十嵐部長から引き継ぎ、内科ならびに腎臓内科、透析センターでの診療にあたっております。

腎臓内科のメンバーはもちろん、病棟ならびに外来看護師、臨床工学技士をはじめ、腎臓診療ならびに透析診療にかかわる病院スタッフすべてに日々支えられ、組織が堅持されていることを痛感しております。

現在立川病院腎臓内科は、常勤医4名体制のもと診療を行っています。腎疾患診断のための腎生検を積極的に実施し、病理診断科とともに腎病理を検討しています。腎臓内科外来では、透析看護認定看護師を中心として「療法選択外来」を実施し、腎代替療法の療法選択を充実、血液透析・腹膜透析、腎移植など透析療法の選択、実施のためにサポートを行っております。腹膜透析の導入、管理も積極的に継続しております。腹膜透析用カテーテル挿入術については泌尿器科の協力を得て実施しています。令和2年度より開始した、血液透析用内シャントのエコーガイド下経皮的血管拡張術（PTA）については、現在は年間100件強の実施、透析用長期留置カテーテル挿入術も実施しています。

透析センターは、多様な疾患に対して血液透析以外の血液浄化療法も扱い、全ての科に必要とされる各種療法、立川病院におけるすべての血液浄化療法・アフエーシスを実施しています。当院は日本透析医学会認定施設ならびに日本腎臓学会研修施設として、医師・看護師・臨床工学技士の教育に積極的に取り組んでおります。透析療法は患者さんへの生活指導や食事指導、あるいはシャント管理など、透析看護として独特かつ細やかな配慮が必要であります。6N病棟看護師が透析室看護の担当となり、看護の提供のため能力向上に努めております。透析センターで実施する血液浄化療法は、MEセンター所属の臨床工学技士が総力をあげ、中心となり活動をしております。

立川市では腎臓内科基幹病院として、3病院「災害医療センター」、「立川病院」、「立川相互病院」の腎臓内科で協力し、「立川CKDネットワーク」として「立川市基幹病院」「立川市医師会」「立川市薬剤師会」「立川市歯科医師会」「立川市福祉保健部」、地域腎臓診療向上を目指します。相互連携や啓発事業など、各団体が適切で効果的な取り組みを企画・実施しています。北多摩西部ならびに周辺の地域医院の皆様方、透析実施施設の皆様方には、日頃より密な連携をいただきましてこの場を借りての感謝を申し上げます。

まだまだ私自身未熟な部分も多く、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。腎臓内科ならびに透析センターは、組織としてのさらなる成長や成熟を目指し、メンバー一同で精一杯の努力をしていく所存です。皆様の今後とも変わらぬご支援を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

麻酔科部長就任のご挨拶



麻酔科部長
羽鳥 英樹

客員医員の方々におかれましては、平素より地域医療連携に御尽力下さり誠にありがとうございます。令和5年5月より麻酔科部長を拝命致しました羽鳥英樹と申します。

私は平成12年に慶應義塾大学医学部麻酔学教室に入局し、武田純三教授（当時）のもとで麻酔学を学びました。同教室では麻酔学以外にも集中治療医学及びペインクリニック、緩和医療と幅広く勉強させて頂き、集中治療とペインクリニックでは専門医を取得致しました。同教授のもとでは大学院生として基礎研究に従事し、「筋弛緩薬が呼吸中枢に及ぼす作用」をテーマに学位を取得致しました。大学病院以外では、国立霞ヶ浦病院（当時）や川崎市立川崎病院で常勤医として働く機会を得て、平成26年に立川病院に着任致しました。

立川病院では今年4月に副院長に就任した福積みどり前麻酔科部長のもと、麻酔業務のみならず他科や他職種、他施設との連携の重要性や多摩地区における立川病院の役割について学ばせて頂きました。皆様ご存じの通り立川病院は「地域医療支援病院」、「東京都二次救急医療指定医療機関」、「東京都がん診療連携拠点病院」、「東京都地域周産期母子医療センター」、「第二種感染症指定病院」、「東京都災害拠点病院」など多くの指定を受けた北多摩西部の基幹病院です。この基幹病院に麻酔科医として貢献できる主たるものは安全な周術期医療の提供だと考えています。立川病院麻酔科が管理する手術件数は平成20年で2,300件程でしたが、以降件数が増加し続け昨年度は3,656件の手術を麻酔科で管理致しました。同年度の総手術件数は5,997件となりました。急増する手術件数に対応すべく2017年の新病院開院時には手術室を増やし8室体制と致しましたがそれでも足りなくなり、ここ数年でさらに2室増設して現在は10室体制で運用しています。麻酔科の人員体制は、長らく常勤医3名の体制でしたが順次優秀な人材を確保し、この4月からは常勤医9名となりました。このうち8名が麻酔科専門医ですので大学病院や同規模の病院と比べても同等以上の体制だと思えます。

今世紀初頭まで高齢の患者が手術を受ける機会はそれほど多くはなかったと思いますが、日本は超高齢社会を迎えて最近では80歳台、90歳台で手術を受けることが日常の光景となってきました。もちろん元気な方ばかりではありませんので、様々な合併症を抱えた患者さんにいかに安全に周術期を乗り切ってもらくか、という問題に日々取り組んでおります。

立川病院の周術期医療を他の仲間たちと共に支えることで、当病院を利用して下さる患者さん、地域連携にご協力頂いている皆様に少しでも貢献出来ることを願ってやみません。今後とも御指導、御鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

整形外科紹介

皆様こんにちは。立川病院整形外科部長の鈴木です。整形外科は医療の中で首から下の筋、骨格、神経など運動にかかわる様々な傷病や外傷を担当します。整形外科医は若いころから運動好きが多く、脳が筋肉でできていそうな一方、命に係わる深刻なことは苦手です。本日はそんな立川病院整形外科のメンバーを紹介します。まずは私ですが…

○鈴木禎寿（すずき よしひさ）部長、得意分野（以下同様）・骨軟部腫瘍：骨のX線写真に変な影がある、腕や脚、胴体にしこりができたなどの際はぜひご相談ください。また近年はがん治療の向上につれ骨転移、脊椎転移の方が増えています。他院でがん治療中の方でも骨転移に関してお困りであれば、遠慮なくご相談ください。

○三尾健介（みお けんすけ）医長、膝関節外科：変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術、膝靭帯損傷、半月板損傷に対する関節鏡手術、膝周囲の骨関節外傷、ベーカー嚢腫に対する関節鏡をもちいた低侵襲手術などを得意とします。

○小久保哲郎（こくぼ てつろう）医長、足の外科：外反母趾に対する矯正骨きり術、変形性足関節症に対する人工足関節置換術、足関節捻挫後遺症に対する外側側副靭帯再建術、足および足関節周囲の骨折・脱臼などありとあらゆる足関連の疾患を治療すること職人レベルです。

○藤巻亮二（ふじまき りょうじ）医長、手・肘外科：手から肘の骨折・脱臼、変形性関節症、腱断裂、絞扼神経障害など、骨・腱・神経に対しオールマイティーに対応可能です。特に鏡視下手根管開放術は負担が少なく患者さんに喜ばれる手術です。

○小倉洋二（おぐら ようじ）医長、脊椎外科：市中病院でよくおこなわれる首腰の椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症はもちろん、くび下がり・腰曲がりなどの脊柱変形、難治性の圧迫骨折、脊椎転移、脊髄腫瘍など大学病院レベルの難易度の高い手術も守備範囲のすこいやつです。

○西山雄一郎（にしやま ゆういちろう）医長、脊椎外科：コロナ禍での米国留学を終え、この4月に就任したばかりです。脊椎脊髄病学会指導医・専門医です。今後の活躍が期待されます。

○刈谷彰吾（かりや しょうご）、室谷直樹（むろや なおき）、加藤大成（かとう たいせい）、福田将大（ふくだ まさひろ）医員：整形外科専門研修プログラムで後期研修中の若手メンバーです。刈谷は4月に整形外科専門医になりました。骨関節外傷を中心に刈谷、福田は股関節疾患、加藤は脊椎疾患、室谷は手・足外科症例を担当します。救急患者の整形外科窓口となり地域への貢献は最も大なるメンバーです。

○金治有彦（かなじ ありひこ）、船山敦（ふなやま あつし）、岩本卓司（いわもと たくじ）、中山ロバート（なかやま ろばーと）、藤江厚廣（ふじえ あつひろ）、関広幸（せきひろゆき）、平賀聡（ひらが さとし）：当科非常勤の医師です。教授、講師、都市型大型総合病院副部長など大御所が多数です。金治、船山、藤江は股関節疾患（人工股関節置換術など）、岩本は関節リウマチ、中山は悪性骨軟部腫瘍、関は足の外科、平賀は肩関節外科を担当します。詳しくは当科ホームページもご参照ください。



当科は慶應義塾大学整形外科、防衛医科大学校整形外科、東京医療センター整形外科など、それぞれを基幹とする整形外科専門研修プログラムにおいて連携施設となっております。整形外科に興味のある医学生や初期研修医とお知り合いの際は、ぜひ当科をご紹介しますと幸いです。



集合写真

前列左から 藤巻、小倉、小久保、鈴木

後列左から 三尾、室谷、刈谷、西山、加藤、福田



皮膚科紹介

皮膚科は今年度も常勤医4名の体制で診療を行っております。

入院や手術、難治性の皮膚疾患への対応が主体になりますが、皮膚に変化があれば年齢、部位、全身症状の有無を問わず、全て診察、治療の対象になりますのでお気軽にご相談いただければと思います。

特に皮膚悪性腫瘍に関しては、病理診断、手術、薬物療法、放射線治療にも対応しており、多摩全域から患者さんを受け入れています。

また当科は日本皮膚科学会の生物学的製剤承認施設であり、乾癬、アトピー性皮膚炎を初めとする種々の難治性皮膚疾患に対して、新規の薬剤も常に取り入れた治療を行っています。

診療内容について

- アレルギー疾患** アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、湿疹・皮膚炎、薬疹、金属・食物アレルギー
- 感染症** 带状疱疹、蜂窩織炎、カポジ水痘様発疹症、水痘・麻疹などの入院加療、重症軟部組織感染症、真菌感染症、疥癬
- 自己免疫疾患** 膠原病、自己免疫性水疱症、ベーチェット病、血管炎
- 皮膚良性腫瘍** 粉瘤、脂肪腫、脂漏性角化症など
- 皮膚悪性腫瘍** 基底細胞癌、日光角化症、ボーエン病、有棘細胞癌、悪性黒色腫、皮膚のリンパ腫、乳房外パジェット病、血管肉腫など
- 難治性創傷** 下腿潰瘍、糖尿病性潰瘍、虚血性潰瘍、熱傷
- しみ、あざ**
- 爪疾患** 陥入爪、巻き爪、爪甲色素線条、爪甲変形、爪変色
- 毛髪疾患** 円形脱毛症、瘢痕性脱毛症、男性型脱毛症
- 炎症性角化症** 乾癬、掌蹠膿疱症など
- 性病** 梅毒、外陰部ヘルペス、尖圭コンジローマなど

連携施設について

当科は慶應義塾大学病院、杏林大学病院とも連携しており、皮膚悪性腫瘍、難治性脱毛症等に関し、病病連携を行っています。

医療機器

紫外線照射装置
ターゲット型紫外線治療器（エキシマライト）
Q-switch ルビーレーザー
炭酸ガスレーザー
高周波メス

医師紹介

部長 稲積 豊子 (いなづみ とよこ)
日本皮膚科学会専門医・指導医
慶應義塾大学医学部皮膚科学教室非常勤
講師

医員 新谷 悠花 (しんたに ゆか)

医員 内川 理紗 (うちかわ りさ)

医員 新川 宏樹 (あらかわ ひろき)
日本皮膚科学会専門医



新谷悠花

稲積豊子

内川理紗

新川宏樹



巻き爪



陥入爪



悪性黒色腫



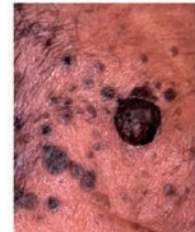
爪下外骨種



円形脱毛症
ステロイド局注、内服、点滴
局所免疫療法、JAK阻害剤



老人性色素斑
レーザー療法

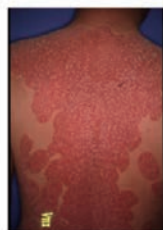


脂漏性角化症
液体窒素、レーザー療法
高周波メス

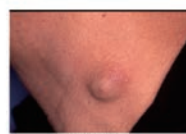
皮膚・粘膜・爪・毛髪関連のことなら、
立川病院皮膚科にお任せください



難治性湿疹



尋常性乾癬
外用、紫外線療法
エトレチネート内服
CysA、PDE4阻害剤
生物学的製剤



粉瘤



悪性黒色腫



基底細胞癌



有棘細胞癌

皮膚悪性腫瘍の
手術、薬物療法
放射線治療、緩和治療



重症軟部組織感染症

形成外科紹介

常勤医2名の体制で、全身麻酔、局所麻酔、外来診療を行っております。

形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損などに対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより手術で生活の質“Quality of Life (QOL)”の向上に貢献することを目的としています。患者さん一人一人の精神的負担の軽減や社会復帰を目指し、診療にあたります。今後とも関連各科、近隣医療機関との連携を密に、邁進してまいりたいと思います。

診療内容について

形成外科分野の対象疾患は多岐にわたりますが、当院では下記の疾患を中心に診療を行っています。

1. 顔面の外傷(顔面挫創、顔面骨骨折(鼻骨骨折、頬骨骨折、眼窩底骨折)など)
2. 体表面の腫瘍(良性の皮膚・皮下腫瘍、脂肪腫など)
3. 先天異常(多指・合指症など)
4. 乳がん手術後の乳房再建
5. その他の腫瘍切除後組織欠損の再建(四肢骨軟部のがん、婦人科がん、頭頸部がんなど)
6. 炎症・変性疾患(四肢リンパ浮腫、陳旧性顔面神経麻痺など)
7. 加齢による瞼の疾患(眼瞼下垂症、眼瞼内反症、睫毛内反症など)

○リンパ浮腫

リンパ浮腫は原発性と続発性に大別され、本邦では続発性が多く、上肢では主に乳がんの治療のための腋窩リンパ節郭清後、下肢では骨盤内臓器(子宮、卵巣、前立腺、大腸)の手術に伴う鼠経リンパ節および骨盤リンパ節の郭清後、または放射線治療や化学療法後に発症します。

当院に在籍するリンパ浮腫専任看護師と連携し、まずはスリーブやストッキング等の圧迫療法、スキンケア、運動療法をはじめとした保存療法を行い、リンパ浮腫に対する検査であるリンパシンチグラフィやICGリンパ管造影検査にてリンパ管の状態を評価してから、手術(リンパ管細静脈吻合術、LVA)を計画します。

リンパ浮腫外科外来	毎週金曜午前
リンパ浮腫外来	毎週木曜午前、金曜午前

当院では、当科と血管外科で外来診療にあたっております。



○乳房再建

乳がんの治療により、患側の乳房が変形した、あるいは失われることがあります。切除前は気にしなかったのに失った気持ちがつらい、パッドがわずらわしい、温泉に行きにくい、鏡を見たときに切なくなるなど様々な声を耳にいたします。形成外科では、できる限り乳房の形を取り戻すための手術（乳房再建術）を行っています。

乳房再建術には数種類あり、大きく分けると「自分の体の一部（自家組織）を使って再建する方法」と「人工物（インプラント）を使って再建する方法」があります。乳房再建を行うことにより乳房の喪失感が軽減し、患者さんの日常生活を取り戻すお手伝いをしています。

○その他の悪性腫瘍切除後に生じた組織欠損に対する再建

がんの治療において手術を行った際、がんの手術と同時に手術後のQOLの維持や社会復帰が求められます。腫瘍を切除した後の組織欠損や損なわれる機能をなるべく元にもどすよう、血流のある皮膚・皮下組織や深部組織を移植する「再建手術」を行っています。この移植する組織を「皮弁」と言います。強度や柔軟性、Volumeを再現でき、大きな組織欠損、死腔のある部位、陥凹のある部位、関節部、腱・骨・人工物の露出部などに適応があります。

皮弁を栄養する血管をつけたまま移植部位へ移動する「有茎皮弁」と、血管を一度切り離して欠損部に移動し手術用顕微鏡による血管吻合（マイクロサージャリー）にて移植部位へ移動する「遊離皮弁」があります。当院は東京都がん診療連携拠点病院であり、各科と連携して形成外科の得意分野の一つである再建手術を積極的に行っております。

○加齢による眼瞼（まぶた）の疾患（眼瞼下垂症、睫毛内反症、眼瞼内反症など）

加齢に伴い眼瞼を支える組織の緩みが生じた結果、加齢性（老人性）眼瞼下垂症や睫毛内反症、眼瞼内反症をきたすことがあります。眼瞼下垂症では、上眼瞼が挙がりづらく、眼が開きにくい状態で、代償的に前頭筋を収縮させることにより目を開けようとするため、額の皺寄せが目立つようになります。肩こりや頭痛の症状も出ることがあります。睫毛内反症、眼瞼内反症では、加齢に伴い眼瞼を支える組織の緩みが生じた結果、睫毛や眼瞼が内に向いたり外に向いたりする疾患であり、多くは下眼瞼に生じます。内反した場合、睫毛による繰り返す刺激により眼球に傷が生じたり、痛みをきたします。手術は局所麻酔で行います。（美容目的の手術は、当院では行っておりません。）

医師紹介

濱田 茉莉子（はまだ まりこ）
日本形成外科学会 専門医・指導医

最上 由基（もがみ ゆうき）
慶應義塾大学医学部形成外科 専修医



センターからのお知らせ

外来予約センターのご案内

診療予約、各種検査のご予約を承ります。

電話番号 042-523-3856

FAX番号 042-512-7683

受付時間 平日8:30~17:00 第2・第4土曜日8:30~12:00

* 診療のご予約は患者さんからのお電話でも承ります。

* 予約が無い場合は当日の受診ができない場合がございますので、ご注意ください。

外来予約センターよりお願い

患者さんご自身から紹介状・画像等のご郵送や持ち込みをお願いしております。予約日の2日前までに可能な限り必着でお願いいたします。

担当医師が事前に診療情報を確認することで、当日の検査や診療の準備ができる、来院時間の受付にかかる時間が短縮できるなど、よりスムーズな受診につながります。

〈郵送での送付〉

個人情報のため簡易書留での郵送をお願いしております。

立川病院 地域医療連携センターへお送りください。

〈お持ち込み〉

診療受付へお越しください。

月曜日～金曜日 8:15～17:00

第2・第4土曜日 8:15～12:00

〈送付・持込いただくもの〉

- ・ 診療情報提供書（紹介状）
- ・ 画像（フィルム、CD-R）
- ・ 健康保険証、医療券（送付の場合はコピー）

放射線診断科からのお願い

CTやMRI検査で造影剤を使用する場合は、3ヶ月以内の血液検査結果（腎機能等が分かるもの）が必要ですので、患者さんがご持参できるようお渡してください。

また法令により患者さんへの検査説明時に医療被曝に関する説明も必要となりますので併せてお願いいたします。

- 診療のご相談、緊急受診のご依頼は地域医療連携センターで承ります。

電話番号：042-524-2438（時間外は代表に切り替わります）

FAX番号：042-523-3160

連携医（客員医員）の登録について

当院では、協定を結んでおります7医師会および立川市、国立市、東大和市歯科医師会の医師方の連携医（客員医員）の登録を随時受け付けております。所属医師会事務局を通じてご登録をお願いいたします。

認知症疾患医療センターからのお知らせ

認知症でお困りの方につきましては、地域医療連携センターにてご相談を承っております。フリーダイヤル0120-766-613（平日8:30~17:15）

また、診察のご用命に関しては、外来予約センターでご予約を承ります。

ご要望などございましたら、地域医療連携センターまでご連絡をお願いいたします。



ご要望などございましたら、地域医療連携センターまで
ご連絡をお願いいたします。

発行：令和5年7月1日（年6回）
発行者：立川病院地域医療連携センター
編集者：片井均、風間友子

国家公務員共済組合連合会 立川病院

〒190-8531 東京都立川市錦町4-2-22

TEL：042-523-3131 FAX：042-522-5784

ホームページアドレス：<http://www.tachikawa-hosp.gr.jp/index.html>

地域医療連携センター

TEL：042-524-2438

FAX：042-523-3160